笛ゝ卷

特別
チ12
3643
15(3)

笛乃巻

ワキハ子名有

かゝる者を義朋とは内外に称

田乃十郎秋長ゆえ仮。備を義朋の

内子常盛乃内腹ハ三男。牛若殿と

申て内産を。学問の為ハ鞍馬のてらへ内

登を内産い所ハ。学問ハ志ゝ有て。夜ハ

〳〵五条ゝ橋ゝ出。敵多ゝ人を内切仮

故梅若誠之助氏
昭和壬寅春日
梅若重戸氏寄贈

上下の男女の貴賤くらべんに
徒に暮れ明かす事ぞ殿御
さぬやさぬ中なれば いとゞ秋長き事
て候 行秋長しと思ふ洲方へ来らば 偽
八子の事なれば 唯今しまる夏
の日の美小姓 鞭うちふる牛若殿
ぞかくて 五条の橋小出て 数多の人を

切候 上下の男女貴賤 御覧べかり
さぬ洲方へ出て 殿御あさり
や候 備中若殿 いづくぞ
あるぞ 洲方へ申さん 晨
てん 洲方へ参らん いふ牛若殿 行
き寺に有かと 江田思ひふけて 洲方へ
八子と共に 久浦 舟上を

又糸をぞ引かれける いとゝ
かなしき心なれども。思ふ甲斐なき空
言よ。八幡平家は公達の肩を引くゝ
し弘多丸。同じ母なれども学問
さて勝まさば。他山の笑ひ家の誉
母も嬉しう世の人思ふ。学問成て我
せざらんは恥かくして五条の橋に出。人を

失ふよりをしまぞとよ。誠を極ふ有
ふゝそ。母と思ふ子ゆゑ又思ふ
所実ならずやふ。かゝる母へだ
其うれ更ふ紀上そ。去りてそ
なれそそくの者れ心やうやす
親子をもゝ。思ひ忘ぬ中ふゝば
に安りぬ。其の為ハ極るべ。いかゞ

[illegible]ちをるん。又る[illegible]飛[illegible]翔る[illegible]も。其理りを
[illegible]「[illegible]」。[illegible]知れぬ[illegible]。[illegible]ぬ[illegible]三枝の[illegible]を[illegible]鳥[illegible]
[illegible]くの[illegible]ふ[illegible]いう[illegible]。[illegible]やはり[illegible]は
不孝[illegible]も[illegible]れば[illegible]。手を合を立
[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]と[illegible]居[illegible]
[illegible]
[illegible]を[illegible]時[illegible]も[illegible]父[illegible]離[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]手[illegible]
[illegible]ふ[illegible]。[illegible]

[illegible]
[illegible]川の瀬[illegible]を洗[illegible]やをまと。心[illegible]て、
[illegible]思[illegible]称乃。[illegible]れ一時。[illegible]の夕[illegible]乃山[illegible]
[illegible]。[illegible]法[illegible]。六波羅[illegible]人[illegible]。[illegible]
[illegible]を悲[illegible]。[illegible]て[illegible]も今思[illegible]
[illegible]出れ渡[illegible]。[illegible]の[illegible]れば[illegible]ふを[illegible]
[illegible]べ[illegible]ふ[illegible]笛[illegible]ふ[illegible]便[illegible]
[illegible]
いう成[illegible]。[illegible]不審[illegible]。[illegible]法

大師として考え人の笛を傳へさせ故を
[illegible]ふ我そいつもそよ 「おそやた師の
事ハ人〻紀夏や中をを傳へまを
いろ〻ん 是を元入唐の高人めてる笛ふ
ふ長虫嗜の有そよ 備を化しれ何ぞ
[illegible]文を[illegible]後[illegible]おを[illegible]
是ハ後ぞ入る近ハ人も陽一弟子も

「人をを世の事もふ我ふ 人を社番猫を
見を明石河嗜陽を 人を蝉しのやふ
巻陽しを海を 並を[illegible]
風形虫嗜の考方ふ 旨陽蔵理て ム法
大師ハ手に海りを海ハ我の赤ハ子
若ハ手に海ぞ 怪朱虫嗜ハ[illegible]
蔵紀明ふぞちふ[illegible]

流るゝ又よし母を云捨て岩乃すみかに入ぬ
さもし　いふにまかせ。母乃仰れ重ね
たのむぞ明くるを待て昼も居し宵半乃
名残るまで。五条の橋に出てたち〳〵ふり月
を詠めて〳〵寂しくあるぞ
「暮て候

「是ヨリ牛若ノ橋弁慶ニナリノ前ヲ除キ
儀を牛若殿の母の仰れ重ねて

右之本者観世太夫以章句
真本令改正版行畢
明治十四年七月十二日出版御届
同　年同月　刻成

改正者　静岡縣士族
観世清孝
東京府下神田區今川小路一丁目一番地

出版人　京都府平民
檜常介
上京區第三十組丁子屋町六百八十三番地